ASAP あきる野 多摩川学園 カンボジア校通信

NPO 法人「アジアの子どもたちの就学を支援する会」（ASAP）
アサップ

タットム小校舎（後方が寄贈校舎）

CONTENTS

■ **途上国支援の手ごたえと難しさ** 理事長 長谷川安年…P1
■ **カンボジアで支援をするということ** 理事 勝西光治…P2
■ **カンボジア旅行に参加して** 井上 忠男…P3
■ **ASAP活動報告**…P4～7
　児童教育支援金継続の決定
　寄贈校舎手抜き工事発覚
　シェムリアップの事務局員と事務所が！
　現地の中学校訪問
■ **日本のお母さんと**
　カンボジアのお母さんが手をつないで…P8
■ **いずみの会より新規井戸支援金の寄贈**…P8
■ **平成20年度通常総会のご報告**…P9～10

2008. 10

Vol. 3

発展途上国支援の手ごたえと難しさ

理事長　長谷川　安年

カンボジア支援にかかわってから早や４年になります。

平成 20 年 7 月に第 9 回になる両校訪問が 17 名参加の支援ツアーとして行われました。

訪問を重ねると、日本ではほとんど意識することもない事ーー私達が持つ、判断能力・思考力・創造・工夫力等ーーが、『学校や家庭で受けてきた教育によるもの』であることをいやでも意識させられる事が多く、カンボジアの国の安定と発展には学校教育が欠かせないと痛感させられます。

今回の訪問では、トロク校では子ども達の踊りや劇を、タットム校では父兄が私達の為の歓迎の夕食会を用意してくれました。特に夕食会は、費用こそこちらの負担でしたが、大勢の父兄が学校に集まり、心温まる手作りの食事による大変喜ばしいものでした。

支援を続けることにより、村民との心のつながりや、信頼関係が芽生えて、除々に自ら努力する姿勢を感じるようになりました。私達も意のあるところをはっきりと伝えることが出来るようになり、今後はこれまで以上に成果があがるのではないかと思います。

一方、後に詳しく記しましたが、2007 年に寄贈したタットム小新校舎に手抜き工事が見つかるという、予想もしない難しい問題が浮上いたしました。

タットム小は、2006 年に私個人として寄贈したトロク小の分校で、新校舎についてはカンボジア通信 Vol. 2 で詳しく報告しましたが、「タットム校の校舎を寄贈する会」と ASAP とで二分の一ずつ負担して建てられたものです。トロク小と同様に、在日カンボジア大使、プーソティレア大使の紹介で工事は行なわれました。横流し、手抜きなど横行する途上国での工事です。大使の紹介なので間違いは起こるまいと思いつつも、建築現場を実際に訪れ、状況を確認する等、注意を払ってきたつもりでした。再工事が必要となる様な手抜き工事が行なわれてしまったことに、我々も憤りを感じています。

とはいえ、子供が安心して勉強出来ない教室をこのままにしておく訳にもいきません。幸いなことに、埼玉大学建築学科での留学を終え、度々プノンペンから駆けつけ通訳として協力を頂いているフォンさんが、建築会社を開いていますので、修理をお願いすることになりました。実際の修理費用、工事の様子等は、次回の報告になりますが、大体 150 万円ほどの工事となるようです。

ご支援いただいている皆様に、このようなご報告をしなくてはならないことは誠に申し訳なく、ここにお詫び申し上げます。

今後このような事態が二度と起こらぬように、また、皆様からの寄付金でより建設的な支援ができるように、シェムリアップに現地職員を置き、度々両校に足を運んでもらうことを決定いたしました。

ASAP は皆様のご支援で支えられています。この一年間の ASAP の活動の報告をさせて頂き、今後とも変わらぬご支援をお願い致します。

卒業生による踊り

カンボジアで支援をするということ

理事　勝 西　光 治

雨季のカンボジアへ行ってきました。
カンボジアには、日本を朝発てば夕方には着いてしまいます。十数時間で私達は日常から、最貧国の中に、突然入ってしまいます。ただ、『最貧国』とは、工業国家からみた場合の感覚で、従来よりの農業国家が、内戦で荒廃した後の姿としては、普通なのかもしれませんが。

最近の都市部ではそうでもなくなりましたが、電気、ガス、水道のない生活です。税金はありません。そのかわり現金収入もありません。
農業が８０パーセントの産業構造の国です。

基本的に読み書きは必要がない、というお国柄です。子供を教育すると農業から離れていくから、というのが、為政者の認識です。

確かに、内戦後（１９９１～）のベビーブームで生まれた数多くの子ども達が、いっせいに教育を受け、農業以外の能力を身につけ、他の産業へ現金収入を求めて一挙に都会に流れ込んだら、失業率はうなぎのぼりになるでしょう。

つまりカンボジアの国は今それを吸収するだけの産業がありません。国は外国からの投資を期待しているのでしょう。ところが、中国よりも安い労働力を提供しようとしても、教育がゆきとどいていないため労働力にならないのです。教育よりも、インフラ整備や、軍事に ODA（政府開発援助）のお金がまわってしまいます。何割かは、役人や政治家の取り分にもなるでしょう。

それで小学校の先生の給料は月に 3000 円です。都会の先生は、付け届けと塾の講師の収入が支えです。都会では教育に熱心です。『将来稼げるのだから、教育は自分で投資するもの』という感じです。反面、農村は農業に教育はいらない、という感じです。

あたらしい風は、吹き始めています。

中国の投資が増え始めました。韓国の投資も競っています。ベトナムも外国の ODA を梃子にして、カンボジアへのアプローチを企図しています。

もっとも、近代化をやっと始めたばかりの途上国は、既先進国の発展経路をそのまま踏襲するとは、限りません。それは、先進国の変化のスピードが、幾何級数的に速くなるからです。

例えば、電気、ガス、水道のない生活のなかに、突然携帯電話が入ってきたりします。バイクで中学校に通学してくる生徒がいます。ガソリンの高騰が彼にとって大きな問題となります。

きわめて今日的な、私達と同じ悩みをもつようになってきています。電気はないのですが、TV は、バッテリーでみています。街のコンビニには若い人がたむろしています。
ネットカフェでは、１ドルでメールや、ネットが使えます。ATM も設置されました。
銀行口座など、だれがもっているのだろう？とあやしむのですが…

この様に、外国の投資は、最先端のものが、その国の状況におかまいなしに、どんどん入ってきます。韓国の投資は、金融センターを、街ごと創ってしまおう、というものです。シンガポール化という事でしょう。これも、先端すぎて、「どうするんだ！」という感じです。

プノンペンには、超高層オフィスビルが建つことでしょう。ベトナムは、高速道路をカンボジア国境まで作り始めています。なんだか、どこも、かしこも、アンバランスなかんじです。
発展途上国特有の混沌とした状況かもしれません。

このような状況のカンボジアで、農村の小学校の支援をしています。

カンボジア旅行に参加して

井 上　忠 男

生まれて初めての海外旅行、親子三人のカンボジアへの旅。

パスポートの申請・取得からすべて初体験、娘に頼りきった準備日程、出国から帰国まで全ての手続きを、勝西さん（ASAP 理事）に頼っての旅でした。ホテルも、三度の食事も何一つ不自由することなく出来、むしろ贅沢すぎる思いでした。一般の人たちとの生活の格差を見せ付けられる思いでした。

カンボジアでの一夜明けの早朝（5時半頃）部屋を抜け出し、外に出てみる。
色鮮やかな中庭を散策・・・前庭を抜けてビックリ。バイク・自転車などバンバン走り回り、食事の食材を売る屋台、路上に腰を下ろし何かを待つ長い列、（後でわかった事ですが病院の開院を待つ）もう活気に満ち満ちた生活が始まっていたのでした。

小学校訪問。道すがら車窓から見える高床式の住宅、ただただ質素、省エネの最先端、これ以上の CO^2 の削減を求めることは出来まい。

すでに児童・先生達が集まり、卒業式の準備をして私達一行の到着を待っていました。
皆一様にキラキラ光る目、私達の動きやこれから行なわれる事に興味深々といった、顔・顔・顔。
一人一人卒業アルバムを受け取る本当に嬉しそうな顔。
お礼の歌と踊り、将来の目標を明確に表現する真剣な表情、つい日本の子ども達の表情と重ね合わせて考えてしまいました。

お母さんたちによる心づくしのもてなし、正直、お米は口に合いませんでしたがスープ（？）は美味しくいただきました。
遺跡観光。写真などで多少は知っていましたが実際目の当たりにして感動を覚えました。細やかでしかも膨大な彫刻などなど。偉大な力を感じてきました。

ガイドのリアさんの案内で楽しい旅行が出来ました。
理事長の奥さんはじめ、参加者皆さんの親切に親子三人感謝しています。
機会があれば、再度参加したいと思います。

2008 年 7 月支援ツアー・カンボジア王宮前にて

ＡＳＡＰの活　動　報　告

＜第6回訪問＞

＊ 2007 年（平成 19 年）12 月 20～21

＊ 訪問者　池田副理事　　＊児童の就学状況等のアンケート実地

＜第7回訪問（支援ツアー）＞

＊ 2007 年 12 月 27～30 日

＊ 訪問者　長谷川理事長、事務局大沼、他 2 名

＊ 教師へ児童教育支援金支給

月額 30＄×6 ヶ月（180＄）×17 名分　3060＄

＊ 日本語習得費用支給

教師 2 名に月額 50＄×6 ヶ月　600＄

＊ 必要文具購入

数学の授業の様子。支援品のホワイトボード活躍中！

＜第8回訪問＞

＊ 2008 年（平成 20 年）2 月 10～14 日

＊ ＮＨＫ文化センター主催「池田卵形先生と行くカンボジアの旅』の皆様 16 名が両校の 6 年生に墨絵を手ほどきしてくれました。
初めての墨絵に挑戦した子ども達の絵は、今も教室に飾られています。

「第9回訪問（支援ツアー）」

＊ 2008 年 7 月 13～18 日

＊ 長谷川理事長、池田副理事、勝西理事を含む 17 名

＊ 教師へ児童教育支援金支給

月額 30＄×6 ヶ月（180＄）×17 名分　3060＄

＊ 日本語習得費用支給

教師 1 名に月額 50＄×6 ヶ月　300＄

必要文具（バケツ・カーテン・文具その他）購入　630＄

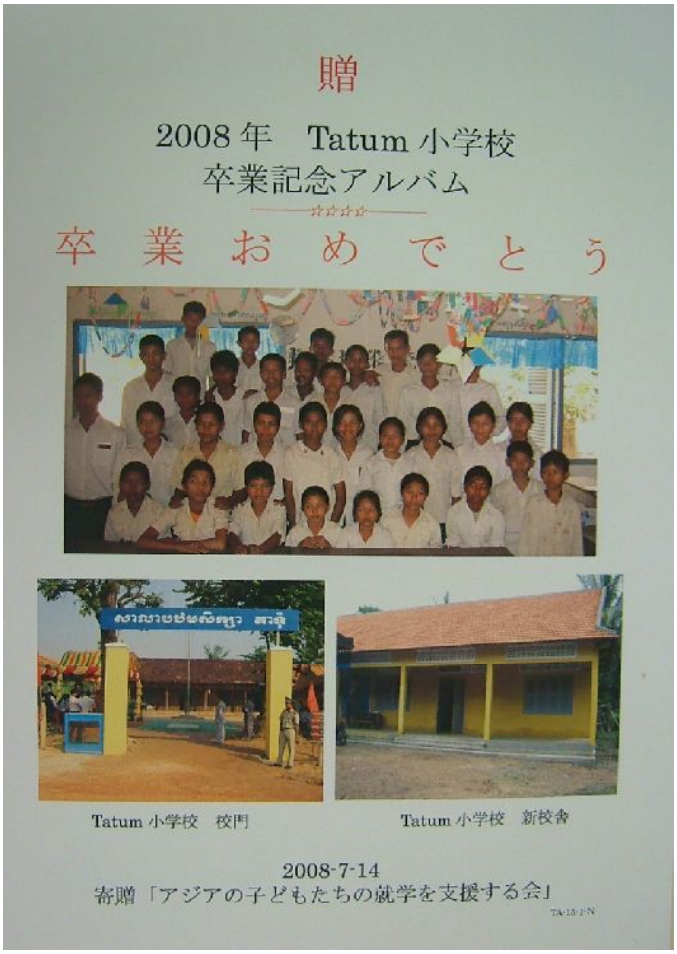
新一年生の制服購入　1280＄

買い付けの様子

＊両校卒業式に参列し、アルバムの授与をはじめ、新一年生への制服の購入、必要教材の支給、中学校視察、現地事務局員依頼などの実地してまいりました。
ツアー参加者の手記、及び細かい支援内容のご報告を別記しておりますのでご覧下さい。

卒業式に出席、アルバムの授与

両校卒業生へ記念アルバムを日本で制作し持参、贈呈致しました。自分の写真等一枚も持たない子供達は目を輝やかせ、踊りや寸劇（大きな大根）を披露し、私達の訪問に一生懸命感謝の気持ちを表してくれました。



アルバムの表紙（日本語版）

アルバム授与の様子

「大きなかぶ」･声を合わせて引っ張ります

校庭での夕食準備を覗き込む子どもたち

日本からはハーモニカと踊りを披露

児童教育支援金の継続の決定

学校教育に対する国からの予算はないに等しい現状に、ASAP は全教員（１７名）にそれぞれ毎月３０ドルを教育支援金として給付してきました。確実に手元に届け、その成果を確認するためにも、１年に２度、自費による両校の訪問を続けてきました。

訪問の度先生達と話し合いを持ちますが、我々から見ると「もっと積極的にしてほしい!」「もっと工夫を！」というような、教育を充分に受けていないものが、教師にならざるを得ない現場ゆえの頼りなさを度々感じます。果たしてこの援助金が、子供の教育のために本当に意味をなしているか、もっと違う方法を検討した方が良いのではないか、という意見も出て来ていました。

7 月の訪問では『援助金を続けるかどうか』を見極めるのもひとつの目的でした。

訪問して知ったのは、現在のカンボジアのインフレ状態です。世界的に上昇している石油価格はカンボジアも同様で、価格は日本以上です。物価が日に日に上がる中、教師の給料はあまり変わらず、その為学校の先生がどんどん他の仕事に流れてしまい、先生の足りない学校が少なくないということも知りました。

そのような中、トロク、タットム校の先生の定着率はほぼ１００％であることを考えると（政府による移動が２名、新任教師が３名増えました）、『教育のためにはまず先生が必要である』という我々の目的を果たしていることは間違いないと判断し、支援金の継続を決定しました。

寄贈校舎手抜き工事発覚

理事長挨拶でふれました「タットム校の手抜き工事」の調査報告書です。
在日プー大使の紹介であった建築会社は、現在行方がわからなくなってしまっています。
大変残念ですが、補修工事をせざるをえない状況であります。

至るところに隙間が見られ、教室は雨漏りしています。カンボジアは、日本の国土の半分しかないにも関わらず、降水量は日本の約２倍です。すなわち、日本の４倍近い雨が降る国です。水溜りが出来れば、蚊が繁殖したり、衛生面の問題が起こったりしやすくなります。

これら雨漏りの原因は、技術不足もしくは、手抜き工事が考えられます。

瓦の大きさや幅が一致していないために、屋根の先もデコボコの状態です。

また屋根の梁の数も、足りていないため、安全面でも疑問が残ります。

この様な状態の屋根は、屋根の鉄筋から入れ直し瓦を全面的に張り替えなければならない状態です。

学校の外壁ですが、下の壁が剥がれてきています。

また壁面の塗装が雑な塗装のため、手で触れたり、服が触れたりするだけで、色が映ってしまうという声も上がっています。

考えられる原因は、技術不足による雑な塗装もしくは、質の悪いペンキを仕様したためだと考えられます。

シェムリアップに
事務局員と事務所が！

筑波大学教育学部に留学をされていたコン・サンロートさんが帰国し、シェムリアップ、オールドマーケット近くに観光会社を開設しました。７月の訪問では、終日通訳、案内を務めてくださいました。そのコンさんが事務所の一角を ASAP に提供し、現地事務局員として現地での様々な手続きを手伝ってくださることになりました。奥様も立教大学の留学生だった方なので、今後のあらゆる活動に非常に助かります。

現地の中学校訪問

２年前初めて村に設立された中学校に立ち寄り校長先生の話を聞くことが出来ました。

だだっ広い荒野の中にぽつんと立つ学校は、アジア開発銀行の支援によるものだそうです。建物の中は子ども達の机と黒板のみ。本棚さえなく、古い本が床に積んであるという現状でした。

在校生徒は現在１・２年生のみで、３９３名。６教室を２部制で使っています子ども達が学ぶ学科は７教科で、本来は一人７冊、２８００冊の教科書が必要ですが、実際には全部で５００冊の教科書しかなく、授業中グループで一冊の本を使っているそうです。

職員室の床に積まれたぼろぼろの本は、校長先生の以前の赴任校で、古くなり不要になって分けてもらった教科書でした。　お給料は、月５０ドルと、観光ガイドなどに比べてかなり低いのですが、この中学校で１０年は頑張るつもりで移ってきたと語る校長先生の、実直な、しかし困惑した様子が大変印象的でした。

校長先生と支援の具体的な話をしたわけではないのですが、トロク校、タットム校の卒業生がいつか教師として村に戻り現地の力になってくれることが、我々ASAP のひとつの目標でもあり、その為には中学校の協力が必要とかんがえますので、　何かしらの支援ができないか NPO で検討をすることになりました。

余談ではありますが、教室にいた生徒の中にトロク出身の生徒もいると聞き、私達を知っているか聞いたところ、恥ずかしげに、でも他の生徒にちょっと誇らしげに数名が手を挙げてくれました。私達には大いに励みになりました。

日本のお母さんと
カンボジアのお母さんが手をつないで

学校の中途退学者の退学理由のひとつは貧困です。
現地には米の栽培以外になんの収入もありません。電気、水道もありません。
そこで何か収入（＄）を得る方法はないものかと考え、学校の子ども達のお母さん達で手縫いの裁縫グループを結成し、日本より持参した布で、幼稚園向きのランチョンマット、コップ入れ、着替え入れ袋等を縫ってもらい（手縫い)、日本に持ち帰り、幼稚園児の父母に協力購入して頂く事を計画しました。

昨年、５～６人のお母さんに裁縫の上手な先生が指導して、試作品を作ってもらい日本に送ってもらいました。想像以上にきれいな作品が届き、商品に出来ると確信しました。

今回、販売用の数百枚の材料を現地のお母さん達に託してきました。既に８割がたの品は縫いあがっているとの報告が入ってはいますが、品質管理、日本での販売面など、幾つかクリアしなくてはならない事がまだあります。

しかし、この事業が実現し継続できれば、日本のお母さんは、子供達が使いやすいサイズの小物を揃えることができ、カンボジアのお母さん達は幾らかのドルを手にすることができるでしょう。

両国のお母さん達が手をつなげたらどんなにすてきなことでしょうか。

カンボジアの洋裁グループのお母さん達

いずみの会より新規井戸支援金の寄贈 ・・・・・・・・・・・・・・

この度の訪問にあたり、あきる野市のいずみの会（代表　千田洋子様）より、新規井戸の設置費用にと、会員の皆様の善意（金１６万円）をお預かりしました。

現在、もっとも必要としている場所に寄付できるよう、現地事務局のコンさんに現地調査を依頼し、いくつかの候補地が挙がってきている段階です。

出来るだけ早くに現場を確定し、工事にかかりたいと思います

平成20年度　通常総会のご報告

去る９月１８日に多摩川幼稚園にて平成２０年度の通常総会が開催され、平成１９年度事業報告収支決算、平成２０年度事業計画、収支予算が承認されました。以下、事業報告、決算、事業計画、予算の概要です。詳しくはホームページに公開しております。

1　19年度　事業報告（事業の成果）

NPO 認可後初めての通年期間の事業としてシェムリアップ州のトロク小学校および新設のタットゥム小学校、ならびに両校区の学齢児童家庭に対して各種の支援を継続しました。両校に対し、教具等の寄贈と教員給与の補助を通し人材の確保、定着と教育の質的向上を図りました。また、教室数が不足するタットゥム小学校の校舎増設に、「カンボジアタットゥム小学校に校舎を寄贈する会」と連携して資金の一部を支援しました。さらに就学困難家庭への支援事業として新入生への制服支給（都合により２０年度７月に実施）、児童・父兄の啓発などの事業を継続し、就学率の向上を図りました。上記事業の遂行およびこれに係る調査・評価のため、１９年７月に２名、９月に４名、１２月に２回、計５名、２０年２月に１６名（墨絵のてほどき等実施）が訪問しました。さらに広報・啓発事業として「カンボジア通信 vol. ２」、「プチ通信（はがき版）」を会員、支援者に配布するなど広報活動を実施し、国内の支援基盤の充実を図りました。

2　平成19年度　収支決算（概要）　（平成19年7月1日から20年6月30日まで）

（単位:円）

Ⅰ　経常収入の部	
１　会費収入	2, 966, 000
２ 寄付金収入	1, 010, 371
３ その他の収入	2, 157
経常収入合計	**3, 978, 528**
Ⅱ　経常支出の部	
１　事業費	3, 000, 761
（1）教育機関運営支援	2, 614, 219
（2）就学困難家庭支援	243, 014
（3）広報・啓発・調査・連絡調整	143, 528
２　管理費	118, 802
経常支出合計	**3, 119, 563**
経常収支差額	**858, 965**
Ⅲその他資金収入の部	**0**
Ⅳその他資金支出の部	**0**
当期収支差額	**858, 965**
前期繰越収支差額	**2, 644, 191**
次期繰越収支差額	**3, 503, 156**

3　平成20年度　事業計画（事業の実施方針）

引き続きトロク小学校およびタットゥム小学校、ならびに両校区の学齢児童家庭に対して就学率の向上を目的として各種の支援を継続します。両校に対し、教科書・教具等の寄贈および教員給与の補助を通し人材の確保と教育の質的向上を促します。またタットゥム小学校の校舎の補修工事の費用を支援します。さらに、学齢児童および家庭に対しては、引き続き新入生への制服支給と懸案となっている困窮世帯の成績優秀な小学校高学年・中学生への奨学金支給を実現させながら児童・父兄の啓発などの事業を継続し、就学率の向上を図ります。上記事業の遂行およびこれに係る調査・評価を迅速に実施するため、シェムリアップに現地事務所（スタッフの委託を含む）を新設し、およそ４カ月に１度の頻度で日本から訪問する理事、会員及びボランティアの活動を支援します。さらに広報・啓発事業を継続し、支援の効率性を高め、国内の支援基盤を強化します。

4　平成20年度収支予算（概要）　（平成20年7月1日から21年6月30日まで）

（単位：円）

Ⅰ　経常収入の部	
1会費収入	2，500，000
2寄付金収入	500，000
3その他の収入	2，500
経常収入合計	**3，002，500**
Ⅱ経常支出の部	
1　事業費	4，022，000
（1）教育機関運営支援	2，700，000
（2）就学困難家庭支援	620，000
（3）広報・啓発・調査・連絡調整	470，000
（4）現地事務所運営	232，000
2　管理費	164，500
経常支出合計	**4，186，500**
経常収支差額	**−1，184，000**
Ⅲその他資金収入の部	0
Ⅳその他資金支出の部	0
当期収支差額	**−1，184，000**
前期繰越収支差額	**3，503，156**
次期繰越収支差額	**2，319，156**

支援金寄付について

最近「カンボジアへ小学校を」という声を聞くことがあります。カンボジアの現状を知る私達としては、建てられた小学校のその後の事が大変気になります。

ASAP ではカンボジアの小さな 2 つの小学校を、学校校舎の寄付だけに終わる事無く、先生の確保など、継続した支援を続けることができています。

これもひとえに皆様のご支援のおかげです。カンボジアの現状や学校の様子を皆様に伝え、皆さんのご支援が、どこでどの様に使われているのかをしっかりとご報告するために、年 1 回の『カンボジア校通信』、数回の『カンボジア校プチ通信』の発行を続けたいと思います

ぜひ引き続き、細く長くのご支援をお願い致します。

ご寄付頂く会費又は支援金は下記口座に振り込みをお願い致します。

＊　正 会 員…毎月 5000 円（年額 60000 円）

＊　賛助会員…毎月 1000 円（年額 12000 円）

＊　その他支援金…随時金額を問わず受け付けております

■郵便振替口座　00130-2-594647

『ＮＰＯアジアの子供たちの就学を支援する会』

■西武信用金庫　秋川支店　033

普通口座　1292601

口座名　『NPO 法人アジアの子どもたちの就学を支援する会

理事長　長谷川　安年（ハセガワ　ヤストシ）』

＊注　両口座名が異なりますのでご注意下さい

あきる野多摩川学園カンボジア校通信
ASAP 会報　Vol.3　2008.10

■発　行　　※NPO 法人　アジアの子どもたちの就学を支援する会
（省略“ASAP”　Asia　School　Attendance　Partnership）

〒197-0825　東京都あきる野市雨間 429 番地
TEL　042-558-0218（多摩川幼稚園内）
FAX　042-550-2467
メールアドレス　asap@tamagawa-kids.jp
ホームページ　http://www.tamagawa-kids.jp/c-index.html

■発行人　　長谷川　安年